

全国の単位倫理法人会には、倫理研究所法人局から法人レクチャラーが派遣されま
す。経営者の集いや経営者モーニングセミ
ナーの場で体験発表を行ない、自身の体験
を通して得た倫理実践の大切さを聴講者に
伝えます。

ただし倫理法人会では、学ぶのは聴講側
だけではありません。法人レクチャラー自
身も、人前で発表することにより学び、成
長することができるのです。

話す機会の少ない頃は、話している途中
で頭が真っ白になったり、脱線しすぎて元
に戻らなかつたりという失敗の連続であつ
ても、回数を重ねるうちに伝えたいことを
充分に発表できるようになってくるもので
す。また、話しているうちに心が整理され、
様々な気づきが得られる絶好の機会ともな
ります。倫理法人会とは、講師も聴講者も
共に切磋琢磨できる「道場」と捉えること
ができるでしょう。

人前で話すのが苦手だと思っていた若手
経営者のKさんが、初めて法人レクチャラ
ーの役割を受け、体験発表者として他県へ
赴くことになりました。「私のような若輩者
が、大勢の経営者の前で何を話したらよい
のか」と悩み、考えれば考えるほど気持ち
は重くなり、その日が近づくにつれ心臓が
ドキドキして眠れない日々が続きました。
いよいよ当日になり、意を決して会場へ
入ると、開始直前にもかかわらず三人しか



聴くは道場なり 話すも道場なり

いません。時間を間違えたのかと思いまし
たが、その後すぐに開始のベルが鳴りまし
た。結局、最後までその三人だけでした。
「さんさん緊張して準備したのに…」と少
し意気消沈しましたが、三人の皆さんがニ
コニコうなずきながら聴いてくれたために
緊張感がほぐれ、最後までなんとか話し通
すことができました。

翌朝のモーニングセミナーでも、四人の
参加者の前で精一杯講師役を務め、私のよ
うな未熟者の話を、こんなにも一所懸命に
聞いていただけなのかと、Kさんは感謝
の気持ちで一杯になりました。

その日は帰りの電車の時間を遅めに取っ
ていましたが、ある参加者から「その時間
を私に下さい」と言われ、その地しか味
わえない場所を一日中案内してもらいまし
た。お別れの際も、見えなくなるまで手を
振ってくれたということです。

K氏はこの経験をきっかけとして、講師
としての役に自信が持てるようになりまし
た。同じ倫理法人会仲間の厚意に心から感
謝し、「この感動を、今度は私が与えられる
ようにしたい」と決意したのです。

倫理運動とは名前をかえていえば、「恩の
自覚運動」であり、「恩返し運動」なのであ
る。(丸山敏雄 人と思想 一四〇頁)

受けた恩を自覚し、どんな立場であつて
も「学ぶ」という謙虚な姿勢で取り組むこ
とが、自らを真の意味で成長させてくれる
大切な実践なのです。

え・牧えみこ